

学校教育目標

ふるさと竹山で、子どもたちが人とかかわりながら、じりつ(自律・自立)する学校  
 ～「共に育ちましょう」の教えのもとに～



めざす子どもの姿

- ◆自分のよさに気づき、自分も相手も大切にできる子(自律・共生)
- ◆人とかかわりながら、自分(たち)で自分(たち)の学びを深める子(自律・共生)
- ◆ふるさと竹山の「ひと・もの・こと」や身近な疑問や課題から学べる子

めざす子どもの姿を実現するための方策

- 誰一人取り残さないプロジェクト ⇔ 自分のよさに気づき、自分も相手も大切にできる子
  - (1) 違いや多様性を認め合える学級経営と教職員(担任外・サポートルーム)との連携
  - (2) 支援を必要とする児童への対応力の向上
  - (3) 教育相談体制の充実、適時適切な関係機関との連携
  - (4) 自己肯定感の高揚、自分のよさ・友だちのよさに気づく取組
  - (5) 年間を通じた縦割り遊び・縦割り掃除。子どもたちとともに創る児童会・学級会活動
  - (6) 子ども園との接続・連携、小・中連携での取組  
(アブカリ・スタカリ、5歳児5年生連携、トライやるウィークや出前授業・人権交流会によるキャリア形成)
- 学びを深めるプロジェクト ⇔ 人とかかわりながら、自分(たち)で自分(たち)の学びを深める子
  - (1) 「心の安定」と「運動能力の向上」、「課題克服」を目指した朝タイムによる自己調整  
(朝遊び、リズムジャンプトレーニング、課題のある学習への挑戦)
  - (2) 「深い学び(教科の本質)」への到達を目指した授業開発(協働×個別×ICT)  
(個の確立、協働的な自己更新、教師の見取りと介入、メタ認知を促す振り返りの充実)
  - (3) 「自立した学習者」を育むことを目指した取組  
(子どもに委ねる教師の意識改革、児童進行型授業、複数教科・複数単元での自由進度学習)
  - (4) 上記3つに取り組むことで「自己調整力」と「粘り強さ」などの育成を図る支援のあり方の研究
- 地域・家庭と一緒にプロジェクト ⇔ ふるさと竹山の「ひと・もの・こと」や身近な疑問や課題から学べる子
  - (1) 3つの教え(時を守る・場を整える・礼を正す)を基盤とした家庭と連携した取組
  - (2) 地域・家庭とめざす子ども像を共有し全員が当事者となる取組
  - (3) CSを活用した両地域の教育資源(ひと・もの・こと)の効果的な活用と学校参画の推進
  - (4) 竹山学(生活科・総合的な学習の時間)を核とした地域と連携した学習
  - (5) HPや学校だより、通信等による情報発信と積極的な授業公開
  - (6) 的確な情報発信による新しい学習環境づくりへ地域・保護者の協力体制の構築

めざす教職員の姿

- ◆子どもとのことばのキャッチボールを通じて、子どもの可能性をみいだす教職員
- ◆心身ともに健康で、協働して新たなことへの挑戦や学校づくりを楽しめる教職員
- ◆家庭・地域をパートナーと認識し、児童の成長に向け主体的・組織的に取り組む教職員

めざす保護者の姿(統合時の全体懇談会より)

- ◆保護者同士や先生方と仲よくつながる
- ◆子どもたちの個性を尊重し、多様な考え方を認め合える
- ◆子どもの声を聞く・聴く。子どもの変化に気づける
- ◆親がよいお手本になる

めざす地域の姿(統合時の学校運営協議会より)

- ◆地域のよさや伝統を子どもたちに伝えたい
- ◆見守りだけでなく子どもたちや先生方を支援したい
- ◆子どもたちが地域の方々とつながる企画を考えたい
- ◆地域が好きという子どもを育てたい